

1 令和5年度事業の取り組み状況について

(1) 利用状況(2月末時点)

① 利用者数

令和5年度	7,046人
令和4年度	12,200人
前年度比	-5,154人 (57.7%)

- 移転に伴う利用者の低下が著しい。登録団体の予約も減少傾向にある。
- 施設設備の乏しさ(火器が使用できない、男子トイレが2階にしかない、音響設備がない)

駅から遠くなった。フリースペースの座席数が少ない

WIFIがよく途切れる。収容人数の少なさ等の声があった。

- 他の施設と間違えて来所する(金田交流センター等)不動産会社と間違われるなど周知不足が伺える一面もあった。

② 会議室利用件数・稼働率

	利用件数	稼働率
令和5年度	500件	19.4%
令和4年度	583件	34.6%
前年度比	-83件 (85.7%)	-15.2% (56%)

- 稼働率は前年度同様減少傾向。利用件数はそこまで変わっていない。
- 移転後、施設の事を初めて知って利用してくれる人も徐々に増え始めた。
- 施設設備関連の不満の声が多い。

③ 新規登録団体数

令和5年度	8団体
令和4年度	(年間)11団体

- 若い世代の団体の相談、地域活動が少しずつではあるが増えてきている。
- 登録団体から派生して別団体を立ち上げるケースもあった。

登録された団体のジャンルは障害者福祉、まちづくり、教育、災害支援と多岐に渡る。

④ 相談件数

令和5年度	76件
令和4年度	(年間)100件

- 活動を始めたい、団体登録についての相談が39件
(うち相談後に登録した団体が8件、団体設立に向けて対応中が4件、団体とマッチングした方が10件)
施設利用についての相談が21件
- 活動要望の相談後「ちょこ活」より独立して市民活動を始められた方が数人いた。
- 中には包括支援センターと連携して介護ボランティアに発展するケースもあった。

⑤ 取り組み

・ 市民の方への市民活動周知

ホームページの一部コンテンツの改修。

- ・ トップビューを当施設の活動イメージが伝わりやすいよう、自主事業を撮影した画像とみらいラボのロゴを併せたものに変更。
- ・ 登録団体の紹介欄を、属するカテゴリや活動内容の記載を追加して詳細が理解しやすいよう随時更新中。

施設広報誌「ラボ通信」のリニューアル

- ・ 小さな子供から高齢者まで幅広い層に手に取って貰う為、なるべく説明的な文章を省き、フォントサイズを大きくしたうえで感覚的な部分に訴えるようにイラストや画像を多用するなど工夫して作成。
- ・ 広報を希望する団体の紹介欄を作成。
- ・ 合併号を廃止して毎月発行を遵守。

・ 施設の大幅な修繕

兼ねてより希望の声があった、施設の修繕にとりかかった。年配の利用者のより喜びの声が聞けた。以下は修繕箇所。

- ・ 出入口の硝子戸の急な開閉を修繕。
- ・ フリースペースの床が抜けた部分を修復。
- ・ 破損していた男子トイレの便座を交換
- ・ 階段下の段差にスロープを設置(年度内に着工予定)

・ 施設利用促進を目的としたイベントの実施

各年齢層の交流とコミュニティ形成を目的とした「おしゃべりカフェ」

市民活動参加への敷居を下げる目的で行った「ちょこ活」

コーヒーやオーガニック商品を販売、提供する「きさらづみらいカフェ」など

幅広い年齢層に向けた自主事業やイベントを実施。

気軽に立ち寄れる空間作りを目標とした。

(2) 自主事業(2月末時点)

① 子育てサロン

「親子の時間」 第1・第3 火曜・木曜 参加(合計) 12名

保護者同士が集まって育児に関する情報や、悩みを共有して気軽に交流できる憩いの場を

提供する目的で開催。10月に入ってからSNSを通じて申し出て頂いた講師の方より、ベビーマッサージ教室も行われ親子の絆を深めることに助力出来た。

② 市民活動団体交流会

「災害時における連携と協働の必要性」 9/16(水) 参

加 21 名

市民活動団体として災害時における協働の必要性や取り組み方、各団体の強みやその活かし方などを発見、認識するための講座とグループワーク。災害に対して、様々な団体が連携、協働して、災害対応、被災者支援に取り組める体制と関係を構築。団体同士の新たな連携も生まれ、地域の結束力を高めるいい機会になった。

③ 高齢者レクリエーション

「笑顔になれるアクティビティ」

(笑顔になれるレクリエーション)からの名称変更。50歳以上を対象に、交流を図りながらいつまでも笑顔で健康的な生活を送ろうと言う目的で開催。軽い体操や脳トレ。オカリナや三味線、折り紙等、自身が得意な分野を他の参加者にシェアする仕組みを取り入れたことによって多様性のあるイベントとなった。

参加者アンケートでも「楽しかった、満足」「とても役に立つ」と好評だった。

④ きさらづみらいラボ市民活動フェスタ 11月3日(金) 参加100名(概算)

参加団体

- ・きさらづ里山の会：クロモジ商品販売
- ・きさらづ健康ひろば：オーガニック商品販売
- ・NPO法人木更津イルカ計画：ゲーム
- ・CoderDojo木更津：プログラミング体験
- ・NPO法人千葉県防災士連絡会木更津支部：防災ゲーム、体験
- ・太田山プレーパーク：綿菓子、スーパーボール
- ・将棋文化普及協会ちば：将棋体験
- ・昇福：ハンドメイド商品販売
- ・ぱんるーじゅ：ハンドメイド商品販売

時間的な問題で十分な打ち合わせが出来なかったが、市民活動団体のPRは十分にできたと感じた。

⑤ **話し方プレゼンテーション実践講座 11月16日(木) 参加6名**

人に分かりやすく伝えるために、話し方の基本やプレゼンテーションスキルを学講座
今回は「家族、親子間」を主題にしたコミュニケーションを深める内容を題材に開催。
伝え方や言葉選びなどを学んだ参加者からは定期的に開催して欲しいとの要望が寄せられ
た為、団体向けの内容も含め、来年度の開催も考慮したい。

⑥ **こどものアトリエ**

「ガラスにお絵描き」 11月18日(土) 参加38名

木更津こどもまつりに参加した子供達にキットパス(米糠で作られたクレヨン)で
みらいラボのガラス面に絵を描いてもらった。
木更津をテーマにしたカードゲーム「コリチャイズ」や並行して販売したレモネードや
おにぎりも好評で、多くの方々にみらいラボ、引いては楽しみながら市民活動を知って
貰うことに成功した。

「クリスマス手形アート」 12月10日(日) 参加6名

模造紙に手形を押してツリーやサンタに見立てて装飾していく。
告知が遅くて参加者が少なかったが、イベント自体は好評で額縁
に入れた作品をととても嬉しそうに持ち帰って頂き、有益な時間を提供
出来たと感じた。

⑦ **木更津西口CLEAN UP作戦 毎月第4木曜 参加(合計)15名**

登録団体や地元のボランティアと結託して駅前を中心に1~2時間ゴミを拾う。
中々ボランティアが集まらず、天候不良や人員不足で中止する日もあり、
みらいラボのアピールには繋がらなかった。来年度に向けて多くの課題を
残す結果になかった。

⑧ **コミュニティカフェ 毎月第2・4木曜日 2月末までで 103 名参加**

市民間の交流を目的とし、地元の名産品の試食や小物づくりワークショップ、地元事業者の
ボランティアマッサージなど毎回内容を変え実施している。
SNSをみたのがキッカケで来所した利用者也一定数いて、みらいラボの窓口的な自主事業
と近隣の介護施設にも声をかけ、職員と施設利用者の外出時の休憩スポットとしても活用し
ていただいている。

⑨ 市民健康講座

「それ、気を付けてつい考えちゃう、ぐるぐる・もやもや」 10/20(金) 参加8名

「周りに巻き込まれない！自分の機嫌を自分で取る方法」 11/17(金) 参加6名

「人生100年時代！心豊かでしなかに生きていく方法」 12/15(金) 参加8名

「健康よろず相談室」より石川氏を講師に招き、おもに精神面からくる体調の変化とそのセルフケアを学ぶ講座。講座全てに参加するリピーターもあり活動を見た他の公民館から講師依頼もあり団体と関係機関をつなげる事も出来た

⑩ 困りごと解決事業

「地域の困りごと掲示板設置」 随時 品物譲渡 2件 活動実施 2件

施設内委に掲示されているホワイトボードに「これ出来ます」「これで困っています」

「これ譲ります」「これやってみたい」の4項目を記して、各々が希望を書いた付箋を貼り、地域一帯の住民や団体、企業が1for1で様々なものを共有、譲渡、協働して解決することを目的とした自主事業。

2月末現在、市民活動へのマッチングが合計6件。変わったところでは網戸の譲渡や3段飾りの雛人形の人形供養などが行われた。

⑪ ボランティア・市民活動マッチングプログラム

「ボランティアスタッフ、活動参加促進事業」 随時 4団体10名のマッチング

未来の市民活動を担う人材を発掘するべく、各SNSやホームページ、施設掲示物などで市民活動への募集、参加促進を目的とした事業を実施している。

ヒアリングを行い、申し込み者の関心、スキル等を見ながら、それらに合った団体を紹介している。多様な年齢層のマッチングにつながっている。

2 令和6年度事業計画について

絆で築く木更望の架け橋

継続が難しい市民活動団体の抱える問題に「気付き」

互いに連携のとれる「絆」で繋がり。

活動団体をサポートする盤石な体制を「築く」

木更津地域活性化を望む声を紡ぎ、多方向に繋げていけるよう木更津市市民活動支援センター
みらいラボは、来年度も躍進し続けることを約束致します。



—管理運営方針—

■今後の課題

・施設の認知度

移転後1年が経つがまだまだ宣伝、告知が足りてないと感じる。

移転前からの利用者だけでなく、広報活動に力を入れて

みらいラボを初めて利用する人をもっと増やしていきたい。

・周辺施設との差別化

市民活動支援センターと銘打っている割りに、実情は活動の大半が登録団体任せの状態になってしまっている。運営の主軸をしっかりと持ち公民館はじめ、他の地域施設との差別化を図って行きたい。

・施設スタッフのスキルアップ

移転後、環境が変わったせいもあるが、早番、遅番の報連相が上手くいっていなかったり、施設内規の認識が曖昧であったりして、受付業務に支障がでてしまい、利用者の方々を困惑させてしまう場面が何度かあったのでそういった点を踏まえて改善していきたい。

・関連機関との連携強化

みらいラボ単体ではどうしても市民活動の普及に限界があるため社会福祉協議会や包括支援センターと連携を図り、必要情報を共有しつつ、周辺地域の問題の改善や活性化にあたっていきたい。

- ・登録団体との交流不足

登録団体との交流がまだ浅く、関連する自主事業への発展や市民活動希望者のマッチングがうまくいかず機会損失をしているケースがあるため、もっと沢山の団体交流を持ち、互いに活動を発展させていきたい。

—目標—

	令和5年度(2月末時点)	令和6年度
利用者数	7,046人	8,500人
利用件数	500件	600件
新規登録団体数	+8(151団体)	+15(166団体)
相談件数	76件	120件

■取り組み

- ・情報発信の強化

木更津みらいラボ、延いては市民活動の認知度を高める為に各SNSや施設広報誌「ラボ通信」「きさこん」や「らづBiz」「びびなび」などの地域情報誌。音声媒体では「かずさFM」施設アカウントでのインスタライブ等を使用して地域住民に積極的にアプローチしていくつもりです。

むやみやたらに宣伝をするのではなく、各媒体やジャンルに合わせた密度の濃い情報リソースを提供することによって、より効果的、効率的に我々の活動と熱意が浸透していくと思っています。

また、みらいラボのロゴを印刷したのぼりを出入口に立てる予定です。

- ・連携と協働の推進

登録団体や関連機関と交流を図り、明確な共通の目的を見出して地域や市民活動が抱える問題を再確認し、互いの強みを生かした相互支援の体制を整えます。

小規模な共同プロジェクトから始めて、成功体験を積み重ねることで信頼関係を築いていき。互いのノウハウを共有しつつ一体となって問題解決にあたるつもり

です。具体的には後期高齢者や障害者支援に特化した自主事業。外国人滞在者向けの相談窓口及び関係登録団体への紹介等です。

- ・中長期的視点に立脚した運営方針

当施設の登録団体から多く聞こえてくる意見として、活動継続の難しさが挙げられます活動資金の調達、時間の確保、人材不足と理由は様々ですが、せっかく志高く団体を結

成して登録してもそういった諸事情により、規模がボランティアベースのままだったり活動そのものが短期的なもので終了してしまうケースが見受けられます。

来年度はそういったことが無くなるよう積極的に団体と交流して、実際に現場にて一緒に活動をしつつ、内情や問題点を的確に察知して必要に応じて

助成金制度の紹介や専門機関への橋渡し、関心を持つ相談者とのマッチング等ニーズに合わせたサポートを能動的に行い、継続的な活動が出来るような体制をとります。登録団体同士の交流も促進していきます。

自主事業に関しても同様で、見た目のインパクトや目先の実績作りに捕らわれるのではなく、登録団体や関連機関と共に地域に根付いていくような事業やイベントを行いくつもありです。それが行く行くは当施設の価値を高め、木更津の活性化に繋がると考えます。

・ アンケートや相談記録の分析とフィードバック

施設内に設置しているアンケート用紙や随時寄せられる相談シート。年度末に郵送する予定の登録団体向けのアンケートの結果を積極的に取り入れ、当施設を快適に使用して頂けるよう尽力します。アンケートでは

「市民活動をしてみたいけど、どうしたらいいのかわからない」

「市民活動ってなんだか敷居が高そう」

「この施設はどういった利用目的で存在するのか」

などの意見が寄せられているので、そういった方々に向けた市民活動の無料相談会や参加希望者と登録団体とのマッチング。また一般、登録団体共に高齢の利用者が多く

「自身の活動を広めたいけどどうしたらいいのかわからない」

との相談もあるので、初心者向けのパソコン教室や簡易的なツールを使用したチラシや名刺作り。有効で安全なSNSの使い方も開催する予定。

また利便性の悪さを不満とする意見もあるため、それを少しでも解消するべく登録団体自身で端末より会議室の予約が出来るフォームの促進もしていきたい。

それに付随して、施設スタッフもそれらの要望に応えられるよう、e-ラーニングや合同研修、セミナーへの参加でスキルと意識のアップデートをしていきます。

以上、木更津市市民活動支援センターみらいラボは令和6年度も、その多様性を尊重し異なる文化のバックグラウンドを持つ世代間の誰もが気軽に利用出来る施設を目指します。

令和6年度 木更津市市民活動支援センター事業計画書

分類	NO	自主事業名		頻度	年回数
団体支援事業	1	全登録団体交流会	登録団体同士交流によりの連帯感を上げて互いの意識と存在感を高めるイベント	年2回	2
	2	SDGs推進事業	環境保全や差別、貧困などそれぞれのテーマに沿った講座やイベントを行うプロジェクト	年3回	3
	3	防災・減災事業	近年頻発する自然災害の知識や見識を深め、それに基づいた訓練を行うプロジェクト	年1回	1
	4	ボランティア市民活動マッチングプログラム	登録団体のブースを設け、団体の活動紹介やボランティアのマッチングをする場	随時	12
	5	市民活動スキルアップ講座	災害時などのネットワークづくり、市民活動に関する学習会など木更津市の市民活動を活性化させ支援するプロジェクト	年4回	4
	6	話し方・プレゼンテーション実践講座	活動の報告や周知など、人にわかりやすく伝えるために、話し方の基本やプレゼンテーションスキルを学ぶ場	年2回	2
市民参加型事業	7	困りごと解決事業	掲示板に記された相談や悩み、頼みごとを市民または団体企業間で解決することを目的とした事業	随時	12
	8	市民心とからだの健康講座	専門の講師を招き安らかに生きるための秘訣を学ぶ講座	年6回	6
	9	親子のアトリエ	親子で楽しみながら子育ての悩みの共有や交流もできる憩いの場を提供	年2回	2
	10	みらいラボフェスタ	オーガニックフェス内のブースにて市民活動をアピールする目的のプロジェクト	年1回	1
	11	市民協働事業	一般利用者の方々が持っている様々なスキルを学び市民活動へ繋ぐ事業	年5回	5
	12	みらいラボコミュニティカフェ	ワークショップイベント開催、市民活動やボランティア募集の周知、活動参加など気軽に利用できる交流の場	通年	12
	13	プログラミング体験会	発達障害の子供を含む小学生にゲームを通して楽しみながらプログラミングを学んで貰う為のプロジェクト。	年4回	4
	14	みなとぐちクリーン作戦	地域ボランティアや登録団体と結託して駅前を中心に行うゴミ拾い	月1回	12
販売事業	15	きさらづみらいC A F E	地域住民誰もが気軽に足を運び交流できるようコーヒーやお菓子を販売	通年	12
	16	物品販売	お客様や利用団体等が活動で使用するコピー用紙などの販売	通年	12

3 条例個別指定制度について

認定基準(PST基準)

- ①経常収入額における寄付金等の占める割合が20%以上である。
- ②年間3,000円以上の市民等の寄付者が年平均100人以上である。
- ③法人の事務所のある自治体で条例指定を受けている(※条例個別指定制度)。

→NP0法人への寄付促進・認定NP0法人制度の利用促進

指定基準

千葉市

- ①経常収入額における市民等の寄付金の占める割合が10%以上である。
- ②年間3,000円以上の市民等の寄付者が年平均50人以上である。
- ③年間1,000円以上の市民等の寄付者が年平均100人以上である。

市川市

- ・直近2事業年度において、3,000円以上の寄付金を支出する者が平均30人以上いること。

導入自治体の状況

指定基準の設定根拠

・NP0法で定める認定基準を参考に、地域性を加え、寄付の要件(PST基準)を緩和した基準として設定しました。導入にあたっては、条例個別指定制度を既に導入していた近隣の所轄庁(政令市含む)や市民からのパブリックコメントを参考にした。

・認定基準のPST基準を緩和したものではなく、市内のNP0法人に対し実態調査を行った結果から導き出した基準となっている。金額については、寄付した金額が2,000円を引いた残りが控除の対象額となるため、2,000円以上の金額設定を行った。また、内閣府の家庭調査等を参考に3,000円とした。市内に限らなかった理由としては、この制度はNP0法人に対する寄付の促進を図るためのプロセスと考える。そのため、30人のうち市外居住者が占める割合が高かったとしても条例に規定することで、市民から寄付が集まるという付随的な効果も見込まれると考えたため、市内・市外に限らず、人数の算定には含めるものとした。

制度運用上の課題

・現時点までに条例個別指定制度を利用して指定に至った法人は1法人であり、制度を利用する法人が少ない点が挙げられる。

・団体においては、寄附金税額控除になることのメリットより、申出と実績報告の事務手続きや管理の負担によるデメリットの方が大きいのではないかと。市の事務作業としても、新規や変更があるたびに、条例の一部改正、他課との調整の事務手続きが負担となっている。

参考資料：(別紙1)制度概要、(別紙2)条例個別指定の実施状況

(別紙3)条例規定の基準のおおまかなパターン、(別紙4)他自治体の基準